



NEW

県立病院ニュース

～病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して～

新潟県

第175号 令和5年8月 病院局発行

佐藤前がんセンター新潟病院長と本間前坂町病院長に 名誉院長の称号が発令されました。

県立病院における永年の功績が顕著であったとして、令和4年度末で県立病院を退職された佐藤信昭 前がんセンター新潟病院長及び本間則行 前坂町病院長に名誉院長の称号が発令されました。今号はお二人のご功績について紹介します。

佐藤信昭先生の御紹介

佐藤先生は、平成13年にがんセンター新潟病院の外科部長になられたのち、平成23年から臨床部長、平成25年から副院長、平成26年から9年間は院長としてご活躍されました。

県立病院への在籍期間は通算22年に及び、長きにわたり乳腺外科医として、県の医療にご貢献いただきました。



▲山崎病院局長から発令書を贈呈される佐藤先生(左)

県内におけるがん専門病院であるがんセンター新潟病院において、外来化学療法室の拡充整備、緩和ケアセンター及び緩和ケア病棟の開設、がんゲノム医療連携病院の指定、手術ロボット「ダ・ヴィンチ」の導入など、病院の機能強化に取り組み、最新のがん治療を行える体制の整備にご尽力されました。

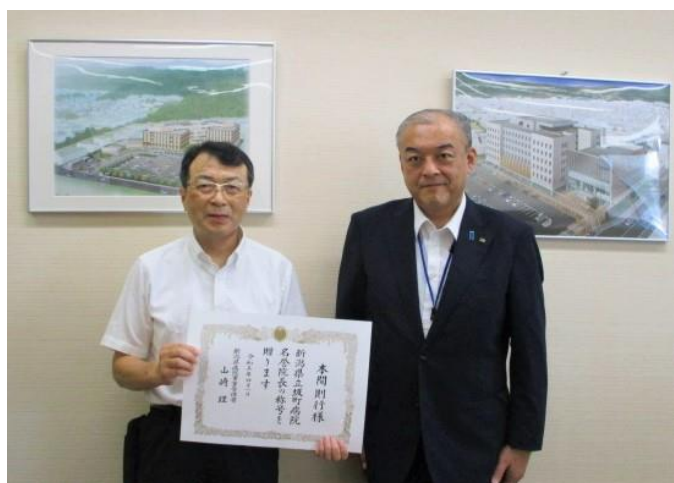
また、都道府県がん診療連携拠点病院のトップとして、県内のがん診療連携拠点病院等との連携体制の強化を図り、本県のがん医療の向上に貢献いただきました。



▲がんセンターに導入されたダビンチ(ロボットアーム部分)

本間則行先生の御紹介

本間先生は、平成10年に坂町病院の内科部長になられたのち、平成13年から新発田病院内科部長、平成19年から同診療部長、平成25年から同副院長として勤務されるとともに、平成20年からは同病院でリウマチセンターの地域連携センター長を兼任され、令和2年から3年間は坂町病院長としてご活躍されました。



▲山崎病院局長から発令書を贈呈される本間先生(左)

県立病院への在籍期間は通算30年に及び、長きにわたり腎臓内科医として県の医療にご貢献いただきました。

院長として卓越したリーダーシップを発揮され、下越圏域のうち、特に村上エリアの地域医療を守るための取組や、地域の医療・介護ニーズを踏まえた地域包括ケア病床の拡大及び在宅復帰支援の充実にご尽力いただきました。

また、新型コロナウイルス感染症の対応について、院内に発熱外来や感染症病床を設置し、診療圏域の感染患者だけでなく診療圏域外の高齢者の感染患者なども多く受け入れる等、新潟県の新型コロナウイルス感染症の医療提供体制確保に大きく貢献されました。



▲令和4年8月3日からの大雨による被害に対応



【編集後記】

佐藤先生、本間先生、名誉院長の発令おめでとうございます。長年、県立病院の安全・安心な医療の提供にご貢献いただき感謝申し上げます。また、職員へのご指導ありがとうございました。